

1 学校教育目標

○進んで学ぶ人 ○礼儀正しい人 ○やり遂げる人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	『生徒・教職員・保護者・地域が誇れる学校』 1 真剣に学習に取り組む向学の気風に満ちた学校 2 礼儀と規律を重んじ、落ち着いた品位と秩序のある学校 3 将来の夢と目標にチャレンジし、やりとげる生徒をはぐくむ学校
○児童・生徒像	『自らの生き方に自信もてる生徒』 1 学力・体力の向上を目指し、意欲的に学習に取り組む生徒 2 礼儀正しくマナーを守り、場面に応じた品位のある行動ができる生徒 3 未来に希望を描き、主体的に自分の進路を切り拓く力をもつ生徒
○教師像	『信頼される教師』 1 生徒を一人の人間として尊重し、こよなく愛す教師 2 組織の一員として、連携と協力体制を築く教師 3 保護者や地域と協働して、教育を推進する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

◎学校について

[よさ] 全校生徒899名の都内最大規模の学校。規律ある落ち着いた環境の中で教育活動が行われている。

[課題] 大規模校であるがゆえに、教師集団が組織的に取り組む姿勢に欠けることがある。

◎生徒について

[よさ] 明るく素直で、校則をよく守り、挨拶の良くできる礼儀正しい生徒。部活動にも熱心に取り組む。

[課題] 学習面において自ら積極的に目標を設定し、常に挑戦する態度を身につけさせることである。

◎教師について

[よさ] 授業、生活指導、部活動やボランティア活動等に熱心な教師が多く、日々の研鑽を怠らない。

[課題] 学年中心の発想から学校経営参画意識の向上を図り、生活指導面でよりきめ細かい指導が必要である

◎保護者・地域について

[よさ] 保護者の学校への関心は高くPTA活動は熱心である。地域は、本校を誇りに思い、積極的に支援する。

[課題] 学校行事や教育活動等の取り組みにあまり熱心とは言えない保護者が、最近増えてきている。

<前年度の成果と課題>

○ 学力向上に向けた授業改善計画を基に指導と評価の実態と日常の生徒の実態の課題を明確にし、各教科において授業改善策を検討してきたことにより、確かな学力の定着と向上を目指す学習指導の充実で成果を上げている。課題として学生ボランティアを活用した定期考査前の学習教室を実施していくために人材確保が必要である。

○ 夏季休業中を利用して教師の人権意識の高揚を図るために講師を招聘し、東京都教育委員会から配布されている人権教育プログラムを活用した研修会を実施し、教師の人権意識の高揚を図った。また、QU調査の実施やふれあい月間を利用した生徒との教育相談およびふれあいタイムを実施し、教師と生徒の信頼関係と生徒の内面的心情の理解に努めるとともに、いじめ、不登校、暴力行為等への取組状況の総点検を行い、現状や取組みの効果等を把握してきた。今後も現状把握と未然防止や解決に向けた取組みを実施していく。

○ 開かれた学校づくり協議会、おやじの会、PTAが本校の教育活動にとっても協力的であり、十四中生のために使命感を持ってその役割を担っていただいている。今年度は開かれた学校づくり協議会の委員の方々による朝の登校あいさつ運動を実施することができ、日常のあいさつの励行に大きな一役を担っていただいた。また、地域における諸行事に部活動の生徒たちやボランティアの生徒たちが多く参加し、地域行事へのかかわりと貢献ができたものと考えている。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		21	22	23	24	25
1	確かな学力の定着と向上を目指す学習指導の充実	○	○	○	○	○
2	教員の人権意識の高揚による生徒指導力の向上	○	○	○	○	○
3	保護者・地域の願いを受けとめた質の高い教育の提供	○	○	○	○	○

5 平成23年度の重点目標

重点的な取組事項－1 確かな学力の定着と向上を目指す学習指導の充実		
A 今年度の成果目標		達成基準
学ぶ喜びを実感できる授業をとおして生徒の主体的に学ぶ意欲を高める。		学校生活アンケートの「各教科の授業は楽しく分かりやすいですか」について、肯定的な回答を全教科平均80%以上にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
英検・漢検・数検の年間各3回の実施。	各検定合格者の割合で昨年の57%を上回る。	各検定前に学習の方法や学習内容を指導する。
教科内授業研究及び全校研究授業をとおして学習指導力を高める。	教科内研究授業を年3回以上、全校研究授業を年2回実施。	新学習指導要領完全実施に向け、年間指導計画の確認をする。
昼休みや放課後の学習の場を提供する	昼休みや放課後の図書館利用者を増加させる。	図書館支援員や図書館ボランティアとの連携を図る。
重点的な取組事項－2 教員の人権感覚の高揚による生徒指導力の向上		
A 今年度の成果目標		達成基準
生徒と教師の信頼関係を基盤にした規範指導及び教育相談の充実。		学校生活アンケートの生徒からの信頼度を示す項目で肯定的な回答を全学年とも70%以上にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
学級担任との教育相談の実施と教科担任との学習相談の実施。	学校生活アンケートの「先生はあなたを認めてくれますか」の肯定的な回答85%以上。	Q U調査により個々の生徒理解、学級集団における望ましい人間関係について把握し、生徒指導や教育相談に生かす
場面の応じたあいさつや言葉遣い、身だしなみで品位を身に付ける。	保護者対象の学校生活アンケートで、生徒の規範意識・生活習慣の項目で肯定的な回答が85%以上とする	総合的な学習の時間にサービス業に従事する外部講師を招き、美しい言葉遣いや礼法を学ぶ。
他者を思いやる言動を身に付けた生徒の育成	人間関係調査でいじめの発件数ゼロを目指し、早期発見・早期解決を図る。	年に3回の人間関係やいじめに関する項目を含むアンケートを実施し、早期発見と解決に努める。
重点的な取組事項－3 保護者・地域の願いを受けとめた質の高い教育の提供		
A 今年度の成果目標		達成基準
保護者・地域をパートナーに、生徒の「生きる力」を育む。		意識調査の「自分がまわりの人に認められている」という項目の質問に、肯定的な回答を70%以上にする。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
保護者・地域との協働によるキャリア教育の実施	進路第一希望の実現を80%達成させる。	進路説明会の資料の工夫、面談の充実、開かれた学校づくり協議会との連携による面接練習の改善。
地域主催のボランティア活動への積極的な参加	生徒のボランティア体験活動を通して地域での所属感を高める。	5月の第14地少協主催（大運動会）、11月の伊興地区対親子ふれあいクリーン作戦等でのボランティア生徒の募集。
学校評価の工夫・改善による、充実した教育活動の展開。	今年度の重点的な取組事項の3項目のうち、達成度について2項目以上を「おおむね達成」とする。	開かれた学校づくり協議会による、『学校関係者評価書』の作成をとおして、家庭・地域と共通理解を図り、適切な連携・協力による学校運営の改善に活用する。